



雨後千漣川(長野県下木内郡豊田村豊津館。1977年。世田谷美術館蔵)

向井潤吉生誕100年記念

# 向井潤吉の絵画と写真展

絵画が語る風景、レンズが見た風景

2002年 6月22日 [土] ▶ 8月18日 [日] 同時開催/収蔵作品展Ⅱ

神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7  
Tel:0783827-6880  
[http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso\\_museum/](http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/)

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：毎週月曜日

交通：JR住吉駅、阪神夙川駅のりかえ、六甲ライナー「アイランド北口」駅下車西へ徒歩すぐ、公園の地下に市営駐車場があります(有料)。

入館料：<当日>一般700円(小学生550円)、高大生500円(350円)、小中生300円(150円) ※( )内は30名以上の団体料金

<前売>一般800円、高大生400円、小中生200円(市内プレイガイドなどで発売)

主催：神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社 協賛：富士写真フイルム株式会社 協力：日本民家再生リサイクル協会 後援：サンテレビジョン、AM神戸

◆講演会：7月14日(日)午後2時～3時30分(予定) 当館2階絵画学習室にて(定員80名、当日整理券を配布します)

「向井潤吉の絵画と写真をめぐって」講師/橋本善八氏(世田谷美術館 学芸員)

◆解説会：毎週土曜日 午後2時より(約30分間) 当館学芸員によるスライド解説



向井潤吉生涯100年記念

# 向井潤吉の絵画と写真展

絵画が語る風景、レンズが見た風景



長野県北安曇郡白馬村北城にて撮影



遅れる春の比より【長野県北安曇郡白馬村北城】 1960年 東山谷美術館蔵

向井潤吉(1901-1995)は、戦後40年以上にわたって全国各地を巡り歩き、それぞれの土地の光と風を身に受けながら、民家と、そこに広がる自然の風景を描き続けました。

本展では、世田谷美術館が所蔵する、民家をモチーフとした油彩作品、茶室作品あわせて106点、そして向井潤吉が作品を制作しつつ撮影を重ねた、民家や風景をモチーフとした写真70点を一堂にご紹介いたします。向井潤吉が撮影した写真は、ご遺族の協力を得て、このたび初めて公開されるものです。

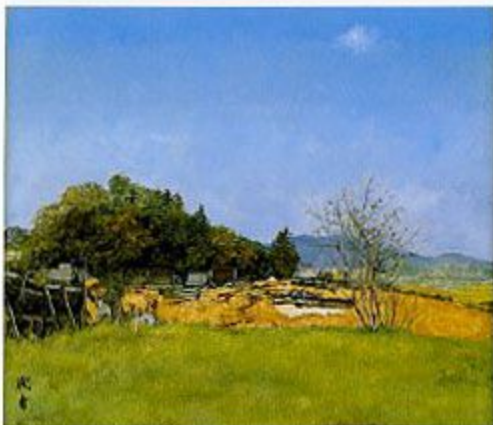
現在、この写真については調査を重ねていま

すが、およそ40,000枚の数量が確認されつつあります。今回はその一部をご紹介します。

この展覧会では、向井潤吉が描いた絵画と彼が撮影した写真を比較し、そこに認められるさまざまな差異を検証することで、写真では表現しえなかった、向井潤吉が独自の持ち得た、個人的で独特な風景に対する感覚や想いというもの、その絵画表現の中に探っていきたいと思えます。戦後の復興期から高度経済成長、そして経済大国として発展を続けた日本の国土上、その姿を次々と逝っていった茅葺き屋根の民家を描き、また写真で記録し続けた向井潤吉の

創作の軌跡を今あらためて見つめなおし、その絵画表現が放つ解烈で清々しい魅力を堪能していただければと思います。

向井潤吉の民家をモチーフとした作品の数々を顧みますと、それは彼自身が民家という風景と出会ってきた過程を示しているのだといえましょう。私たちは向井潤吉の描いた絵画と向き合い、そしてさまざまな思いをめぐらすことで、そこに画家・向井潤吉との心的な交流を生み出し、彼が一枚のキャンパスの中に、何を表現し、何を物語ろうとしていたのかを感じることができるとは思いません。



【長野県遠望一橋寺境内より】(奈良県高市郡明日香村大宇樟) 1970年



一隅の風景【茨城県東茨城郡大洗町】 1975年



峠の下の村【岡山県笠岡市上野原村】 1978年



制作中の向井潤吉 1980年頃



次回展覧会のご案内  
収蔵作品展Ⅲ

特集「小磯良平の銅版画

8月23日(金)～9月29日(日)